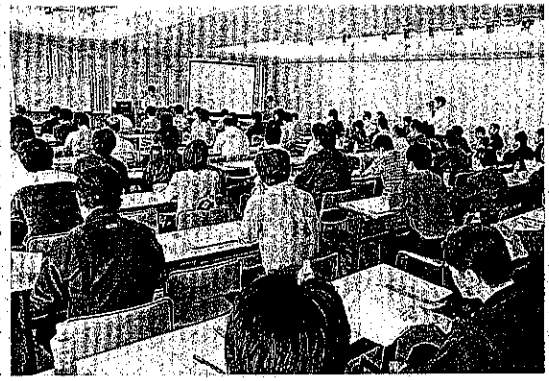
地域産業全体の底上げに

TSO取得に向けた研修会に35社68人

燕商議所

製品から顧客対応まで品質管理する国際規格「ISO9001」に対し、製造方法や設備など製造部門に特化した品質管理基準「TSO」の取得に向けた研修会が、十四日、十五日の二日間、㈱燕三条地場産業振興センターメッセピアで開かれ、三十五社六十八人が参加した。



TSOは「Tsubame Standard Organization」の略。燕商工会議所工業部会が、地域全体の産業の底上げを図るため、小規模な事業所でも取り組める品質管理の仕組みづくりに取り組み構築したもの。

研修会の講師を務めたのは、TSOアドバイザーに就任した、㈱TBCソリューションズの大山俊一郎さん。ISOの取得に携わった経験も豊富で、ISOの審査員も務めたことのある大山さんは、ISOとTSOの違いについて説明した上で、二日間にわたって、文書、設備および計測機器、受注、購買、生産工程、不適合製品の管理について解説した。

講師の大山さん

品質マネジメントシステムと言われるISO9001について大山さんは、「ISO9001は国際的に通用する品質マネジメントを構築、運用するための最低限のルール。ISO9001を取得していると、お客の要求を何でも聞いてくれる会社と勘違いする人もいるが、そうではなく、最低限、必要なことを満たしているということ。そして、顧客満足度のために努力を続けているということ」と、ISO9001について誤解している人もいると、その概要について改めて解説。

そして、TSOとの違いについて、「ISOは製品だけでなく電話対応や請求書の発行など、あらゆる物、人が品質管理の対象となる。TSOは、製造方法や設備だけを管理するというもの。最低限の仕組みを作っていこうという基準」と説明して、具体的な話へと入っていった。

(石山)